

WE'RE FOR CREATORS™



2022年12月期（第40期）

第2四半期 決算説明会

2022年8月17日

株式会社ズーム

zoom®

We're For Creators



I. 2022年12月期第2四半期 決算

一部販売代理店による在庫調整及び半導体不足による売れ筋製品の供給不足等により、前年同期比で減収減益

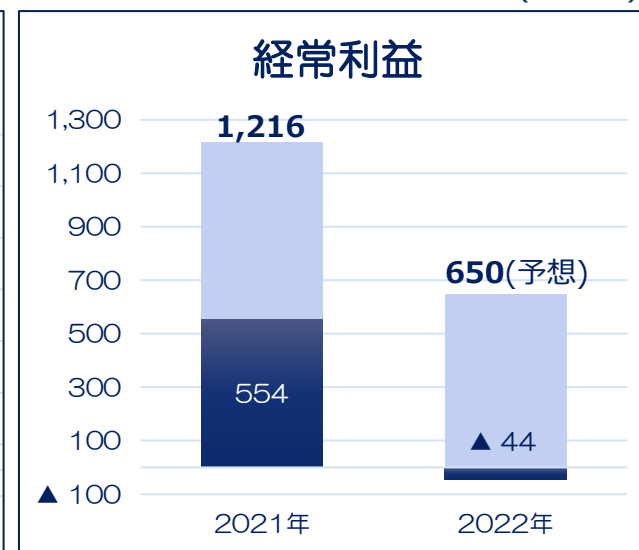
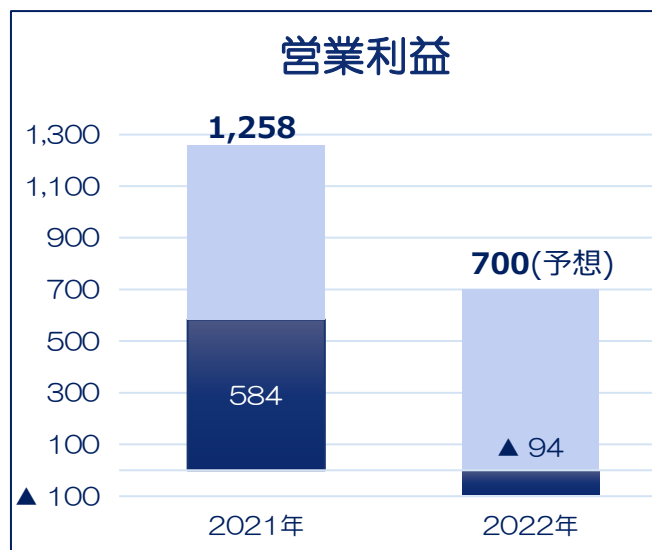
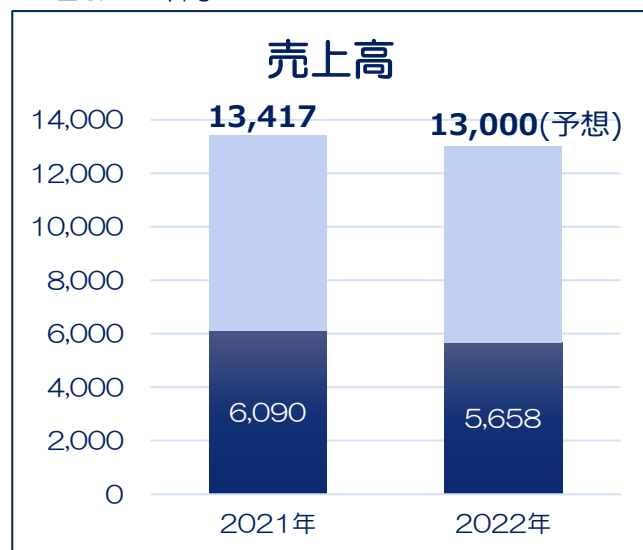
2022年第2四半期連結業績

売上高	:	5,658百万円	(前年同期比	▲431百万円)
営業利益	:	▲94百万円	(前年同期比	▲679百万円)
経常利益	:	▲44百万円	(前年同期比	▲599百万円)

- 半導体不足による新製品や売れ筋商品の供給不足と、アフターコロナの市場環境の変化により欧米で在庫が積み上がり、欧米の販売代理店が在庫調整を行なったことによる販売数量の減少
- 円安効果及びフックアップの決算日変更により同社の9ヶ月分（2021年10月～2022年6月）の損益を取込んだ効果を相殺

■ 2Q ■ 年間

(百万円)



2022年12月期 第2四半期 連結損益計算書（要約）



（百万円）

	2021.12期 第2Q実績	2022.12期 第2Q実績	増減額	摘要
売上高	6,090	5,658	▲431	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足による新製品や売れ筋商品の供給不足と欧米販売代理店の在庫調整による販売数量の減少 円安効果が及びフックアップの決算日変更による9か月分の損益を取込み効果を相殺
売上総利益 (売上総利益率)	2,622 (43.1%)	2,115 (37.4%)	▲507	<ul style="list-style-type: none"> 売上総利益率の高い北米のシェアが減少した一方、同利益率が相対的に低いフックアップの売上シェアが22%と前年同期の6%から増加
営業利益 (売上高営業利益率)	584 (9.6%)	▲94 (▲1.7%)	▲679	
経常利益 (売上高経常利益率)	554 (9.1%)	▲44 (▲0.8%)	▲599	<ul style="list-style-type: none"> 円安により為替差益を44百万円計上
親会社株主に帰属する四半期純利益 (売上高四半期純利益率)	391 (6.4%)	▲104 (▲1.8%)	▲495	<ul style="list-style-type: none"> 一部製品の開発中止により関連する金型の固定資産除却損を33百万円計上
EBITDA	784	117	▲666	EBITDA＝営業利益＋※減価償却費
減価償却費 研究開発費 為替差損益	※ 199 630 ▲6	※ 212 492 44	12 ▲137 50	※のれん償却額99百万円（前年同期89百万円）を含む
平均為替レート（円／米ドル）	107.6円	122.8円	+15.2円	

Other (その他、Mogar取扱いブランド、HUP取扱いブランド)



Mogar取扱いブランド
HUP取扱いブランド



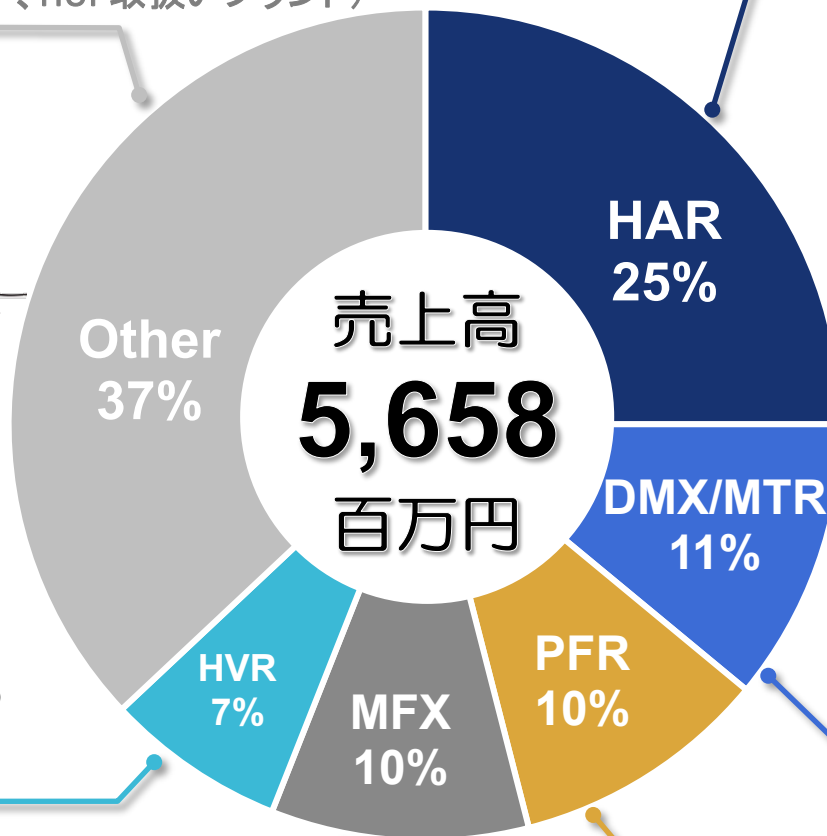
ミュージシャンのための
高音質4Kカメラ

Handy Video Recorder

Multi Effector



ギターの表現力を大幅に広げる
エクスペッションペダルを装
備したマルチエフェクター



Handy Audio Recorder



6種類の交換マイクカプセルで、ポッドキャストから音楽、映像プロダクションなど、いつでも頼りになるプロ音質のハンディレコーダー



音質の良さはもちろん、BGMを流したり、電話出演のゲストを招き入れたり、ポッドキャスト番組の収録やライブ演奏のミキシングが手軽に行えるライブミキサー&レコーダー

Digital Mixer / Multi Track Recorder

Professional Field Recorder



様々な撮影現場で、大音量から極めて静かな音まで最高のクオリティで歪みなく録音可能なフィールドレコーダー

販売代理店の在庫調整及び半導体供給不足により一部のカテゴリーを除き売上減少

(百万円)

	2021.12期 2Q実績(シェア)	2022.12期 2Q実績(シェア)	増減額	売上高の増減要因
ハンディオーディオレコーダー (HAR)	2,319 (38%)	1,429 (25%)	▲890	<ul style="list-style-type: none"> 主として欧米の販売代理店の在庫調整により出荷が減少 一部の製品について半導体不足の影響により製品の供給が不足
デジタルミキサー/マルチトラックレコーダー (DMX/MTR)	1,055 (17%)	615 (11%)	▲439	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足の影響のため、主としてLシリーズの生産数量が大きく減少
プロフェッショナルフィールドレコーダー (PFR)	474 (8%)	592 (10%)	118	<ul style="list-style-type: none"> F3の新製品効果
マルチエフェクター (MFX)	589 (10%)	551 (10%)	▲38	<ul style="list-style-type: none"> 2021年10月発売のB6の新製品効果 一部の製品について半導体不足の影響により製品の生産が減少
ハンディビデオレコーダー (HVR)	315 (5%)	371 (7%)	55	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期需要の急増の反動減があったものの円安及びQ8n-4Kの新製品効果により前年同期比増加
その他	589 (10%)	398 (7%)	▲190	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期にマイクロフォンカテゴリーにおいて新製品効果による販売増があったことによる反動減
Mogar取扱いブランド	375 (6%)	449 (8%)	73	<ul style="list-style-type: none"> 南ヨーロッパにおいてコロナ禍での経済活動の正常化が進んだことにより需要が回復
フックアップ取扱いブランド	370 (6%)	1,250 (22%)	880	<ul style="list-style-type: none"> フックアップの決算日変更により9ヶ月分の売上を取込み(前年同期は3ヶ月分の売上)
合計	6,090	5,658	▲431	

2022年12月期 第2四半期 地域別売上高



販売代理店による在庫調整及び半導体不足による売れ筋製品の供給不足等により多くの地域において売上減少

(百万円)

	2021.12期 2Q実績(シェア)	2022.12期 2Q実績(シェア)	増減額	売上高の増減要因
北米	2,296 (38%)	1,895 (34%)	▲400	<ul style="list-style-type: none"> 販売代理店の在庫調整による出荷の減少 半導体調達難による製品の供給不足により主にDMXの売上が減少 前期はコロナ対策の現金給付により販売増
日本	805 (13%)	1,631 (29%)	825	<ul style="list-style-type: none"> フックアップの決算日変更により9ヶ月分の売上(1,250百万円)を取込み HARとDMXにステイホーム需要の反動減
南ヨーロッパ※1	956 (16%)	944 (17%)	▲12	<ul style="list-style-type: none"> 販売代理店の在庫調整によるHAR、HVRの出荷の減少 Mogar取り扱いブランドは南欧の経済活動の正常化により需要が回復
中央ヨーロッパ※2	1,028 (17%)	426 (8%)	▲601	<ul style="list-style-type: none"> 前年1Qに主にHAR、DMXの受注残の大量出荷があったことによる反動減 販売代理店の在庫調整による出荷の減少
台湾	55 (1%)	81 (1%)	25	<ul style="list-style-type: none"> 上海のロックダウンにより中国向け出荷の一部が台湾経由となった
その他	948 (15%)	679 (11%)	▲269	<ul style="list-style-type: none"> 中国▲77百万円：上海のロックダウンにより出荷が減少 その他：スウェーデン▲43百万円、韓国▲30百万円
合計	6,090	5,658	▲431	

※1. 南ヨーロッパは、イタリア、フランス、スペイン、ポルトガルを含む地域

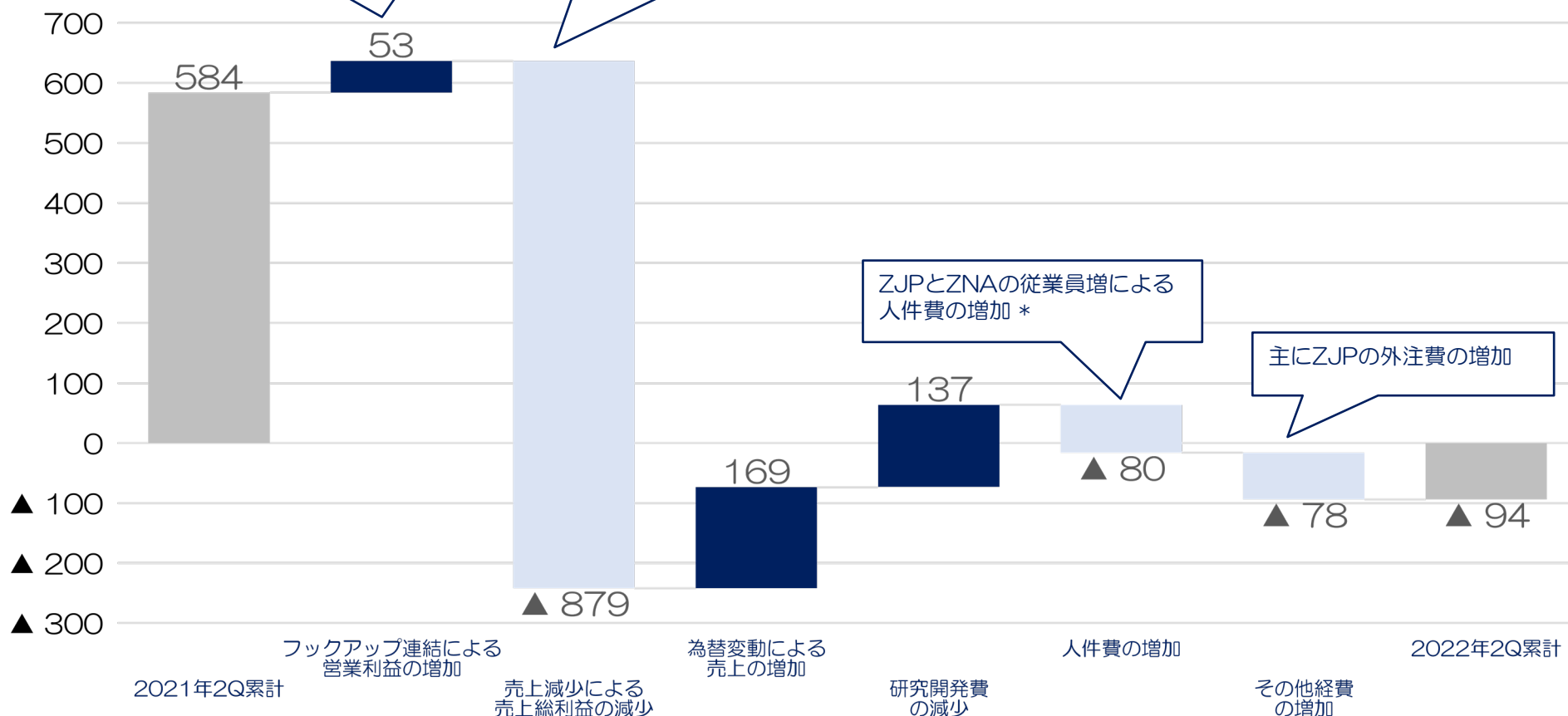
※2. 中央ヨーロッパは、ドイツ、イギリス、ベネルクス3国、オーストリア、ポーランド、チェコ、スロバキア、バルト3国等を含む地域

営業利益の増減分析 (百万円)

フックアップの営業利益前年同期増加額
 ※2021_2Qは3ヶ月分の
 2022_2Qは9ヶ月分の損益を連結

半導体不足等による販売数量の減少により売上総利益が減少

* ZJP: 株式会社ズーム
 ZNA: ZOOM North America, LLC



2022年12月期 第2四半期 連結貸借対照表（要約）



（百万円）

	21.12期末	22.12期 第2Q末	増減額	主な増減要因
流動資産	8,035	9,890	1,855	
現預金	2,067	1,758	▲308	※連結CF計算書（要約）参照
売掛金及び契約資産	1,950	1,608	▲342	売上減少：前期4Qは3,653百万円、当期2Qは2,863百万円
商品及び製品	2,963	4,030	1,066	販売代理店の在庫調整による出荷数の減少 物流混乱もあり6月にZNAへ在庫がまとめて着荷。円安も影響
原材料及び貯蔵品	155	1,231	1,075	収益認識基準適用により、新たに有償支給品の在庫額を認識 （960百万円）
固定資産	2,794	2,968	174	
有形固定資産	548	495	▲52	
無形固定資産	1,476	1,592	115	のれん+121百万円（円安による増加）
投資その他の資産	769	880	111	繰延税金資産+96百万円
資産合計	10,829	12,859	2,029	
流動負債	3,675	5,473	1,798	収益認識基準の適用により、新たに有償支給に係る負債を流動 負債（その他）に計上（960百万円）
買掛金	1,000	1,476	476	生産委託先及び支給部品の仕入増加に加え、円安の影響
短期借入金	1,346	1,918	571	運転資金の調達等により増加
固定負債	1,242	1,178	▲64	長期借入金の返済
負債合計	4,917	6,652	1,734	
資本金	212	212	—	
純資産合計	5,911	6,207	295	為替換算調整勘定+636百万円
負債純資産合計	10,829	12,859	2,029	

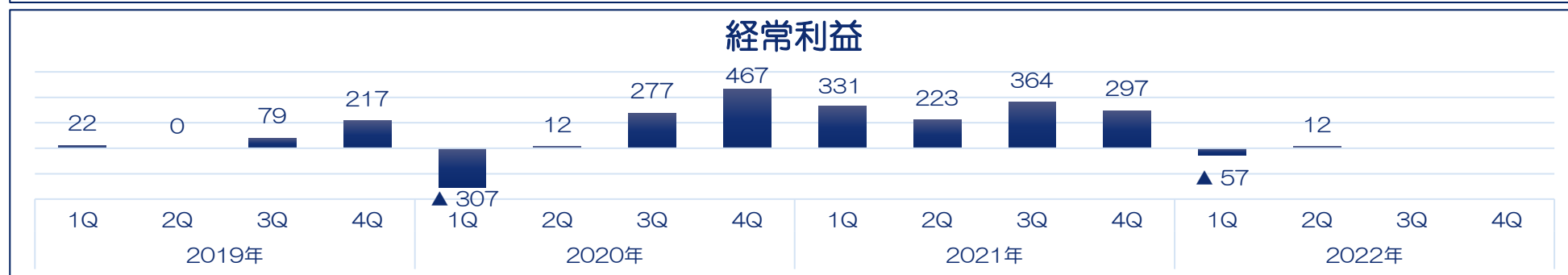
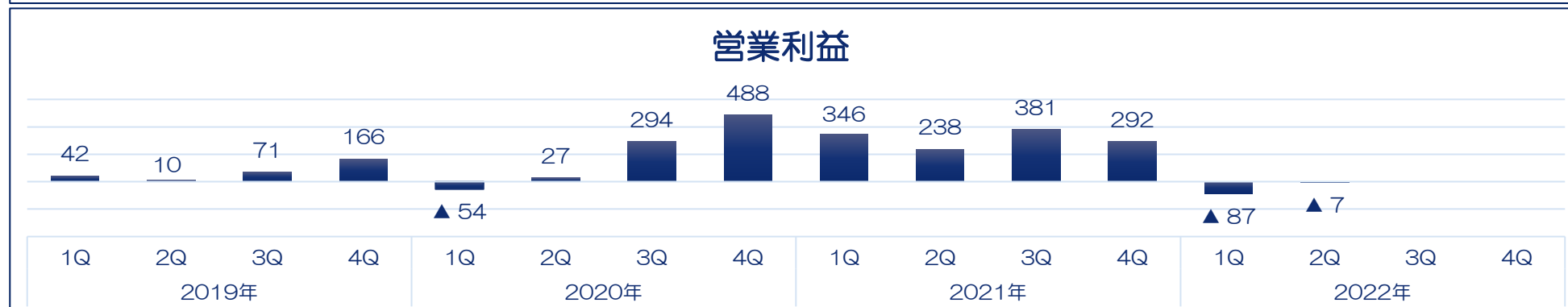
(百万円)

	21.12 第2Q累計実績	22.12 第2Q累計実績	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	591	▲502	▲1,094
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲318	▲94	224
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲876	141	1,017
現金及び現金同等物に係る換算差額	93	141	48
現金及び現金同等物の増減額	▲510	▲313	196
現金及び現金同等物の期首残高	2,697	2,032	▲664
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,186	1,718	▲467

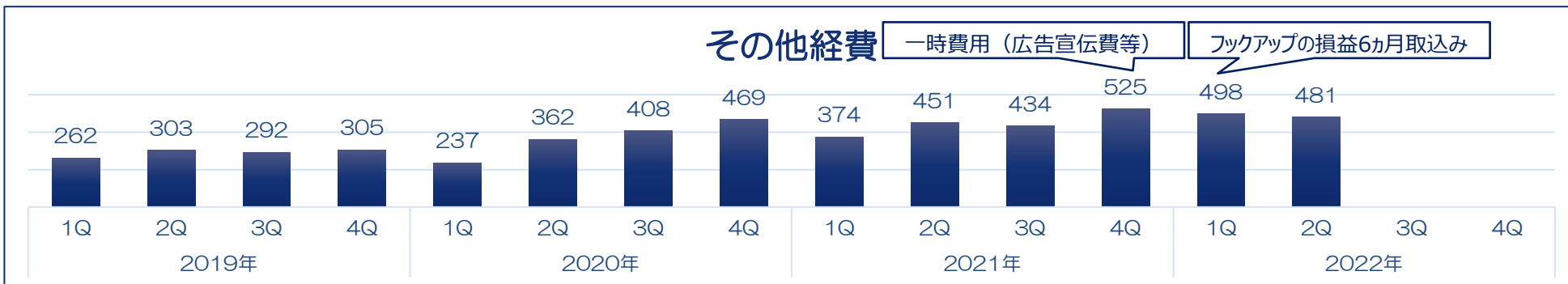
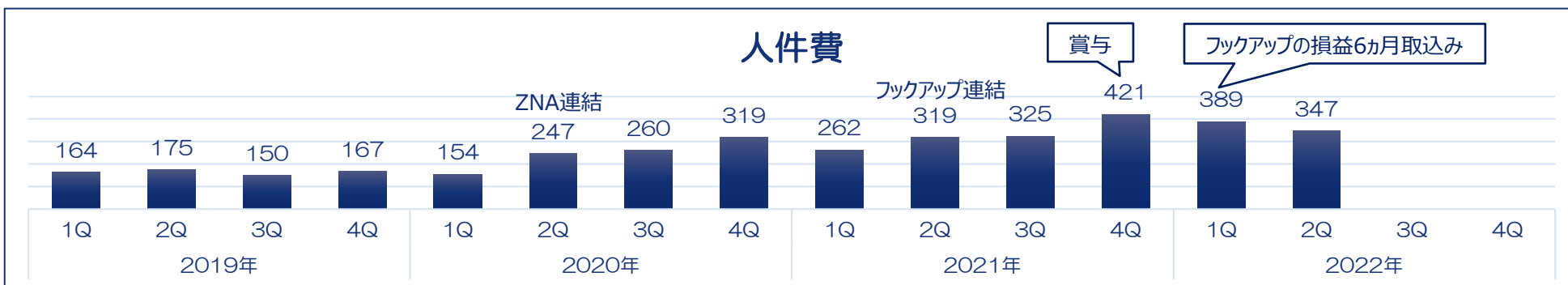
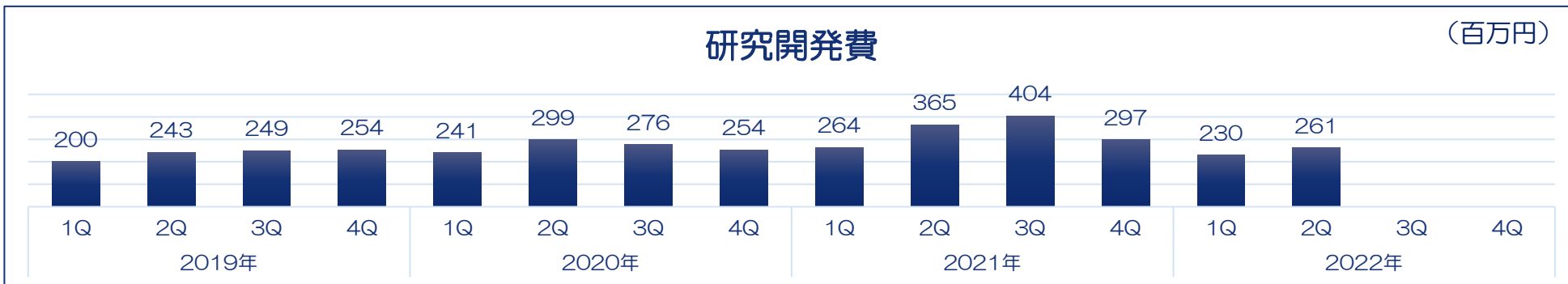
■ 2022年12月期 第2四半期のキャッシュ・フロー（CF）増減要因（百万円）

- 営業活動によるCFの主な要因：売上債権の減少511 / 仕入債務の増加285 / 棚卸資産の増加▲884 / 税金等調整前四半期純損失▲77
- 投資活動によるCFの主な要因：有形固定資産の取得▲76
- 財務活動によるCFの主な要因：自己株式の取得▲64 / 配当金の支払▲217 / 短期借入金の増加512

(百万円)



一部販売代理店による在庫調整及び半導体不足による売れ筋製品の供給不足等より販売数量が減少



1Qはフックアップの損益を6ヶ月分取込んだことで前年同期比で人件費及びその他経費が増加

We're For Creators



Ⅱ. 2022年12月期予想 と 2023年12月期予想

9月以降の売上回復を見込んでおり連結業績予想は変更せず

- ①半導体不足による製品の供給不足は、当下期も継続する見込み
- ②ウクライナ情勢及びインフレ継続懸念から欧米の販売代理店が在庫調整。8月まで当社グループの出荷に影響
- ③上記に加え、物流の混乱もあり数か月分の在庫が北米販売代理店にまとめて着荷したことにより在庫過多の状態
- ④一方、当社製品全体への需要は引き続き堅調であり9月以降は売上回復を予想
年末商戦は例年通り販売増で在庫過多も解消の見込み
- ⑤円安は業績にプラスの影響

①②③④⑤により、通期では、売上高130億円、営業利益7億円の業績予想を達成の見込み

(百万円)

	21.12期 実績	22.12期		
		予想	増減額	増減率
売上高	13,417	13,000	▲417	▲3.1%
営業利益	1,258	700	▲558	▲44.4%
経常利益	1,216	650	▲566	▲46.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	854	400	▲454	▲53.2%
EBITDA	1,666	1,110	▲556	▲33.4%
一株当たり当期純利益	199.56円	92.87円	▲106.69円	▲53.5%
一株配当	102円 (分割考慮後 51円)	50円	—	—
配当性向	25.6%	53.8%	—	—
為替レート (円/米ドル)	109.8円	108.0円	—	—

※ 2022年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施。
 ※ 一株当たり当期純利益は、分割後の株式数で記載。
 ※ 一株配当は、21.12期は分割前、22.12期は分割後で記載。

※ 為替感応度（為替相場の変動が年間利益に与える影響）：1円の円高（円安）で営業利益が約27百万円減少（増加）

半導体不足の状況

- 半導体不足の状況は当下期も継続する見込み
- 主要カテゴリーのHARについては必要数量の生産が可能な状況となった
- 一部製品の供給不足により販売が回復するのは9月以降

上期（2022/1-6月）調達率		下期（2022/7-12月）見込調達率	
部品納入数上位5社	調達率	部品納入数上位5社	調達率
1 A社	99%	1 B社	76%
2 B社	54%	2 C社	99%
3 C社	100%	3 D社	69%
4 D社	63%	4 E社	93%
5 E社	100%	5 F社	72%
合計	86%	合計	84%

下期の半導体不足の影響

- 半導体不足による当下期販売機会損失額の見込み額（2022年8月17日時点；連結売上高ベース）

機種	カテゴリー	百万円
Fシリーズ	PFR	498
Lシリーズ	DMX/MTR	83
Qシリーズ	HVR	31
合計		613

当社製品への需要

- ステイホーム需要の反動により一部製品については前年同期比で需要が減少している
- ウクライナ情勢及びインフレ継続懸念から販売代理店が在庫水準を落としており、その影響で当社グループの売上が回復するのは9月以降を見込む
- 一方で、当社製品全体への需要は引き続き堅調であり年末商戦においては例年通り販売増となることを見込んでいる

北米市場当社製品セルスルー（小売店の売上）

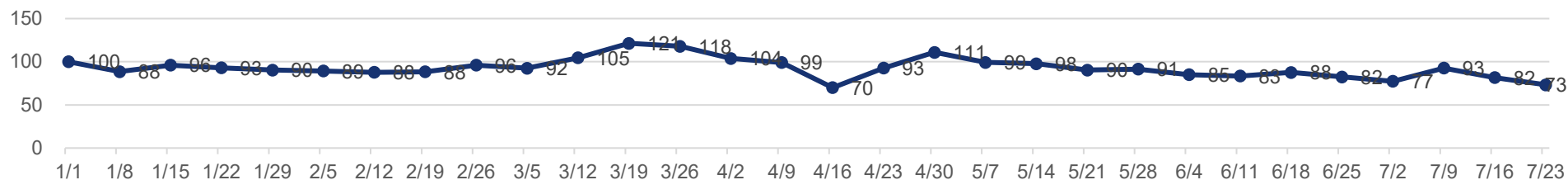
- 北米市場における当社製品の小売店売上 *
 - 2022年7月累計 対前年同期比 -6.6%
 - うち、1-4月 前年同期比 -8.8%
 - 5-7月 前年同期比 -3.4%

- コロナ対策としての米国での2021年1月と3月の現金給付により前年1-4月は売上が大きく伸びた
- 5-7月については前年同期比減ではあるものの堅調であり、今後もこの傾向は継続すると見込む

*当社調べ

(1月1日の週を100として比較)

2022 年度北米 Sell Through (週次) *

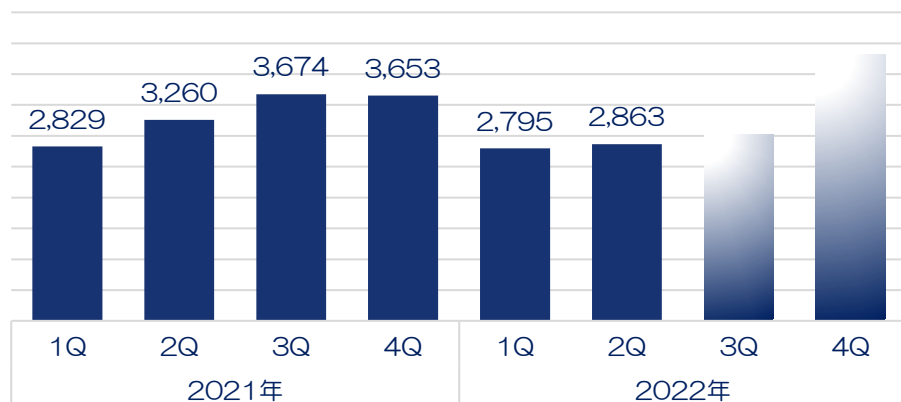


為替について

- 円安は業績にプラスの影響
- 今年の下期は1\$ = 130円から1\$ = 120円のレンジで予測
- 今回下期の業績予想を行うに当り為替リスクを考慮し、8月以降は1\$ = 120円換算で見積もった
- なお、円高リスクに備えるため、8月より一部の輸出取引について為替予約を実施

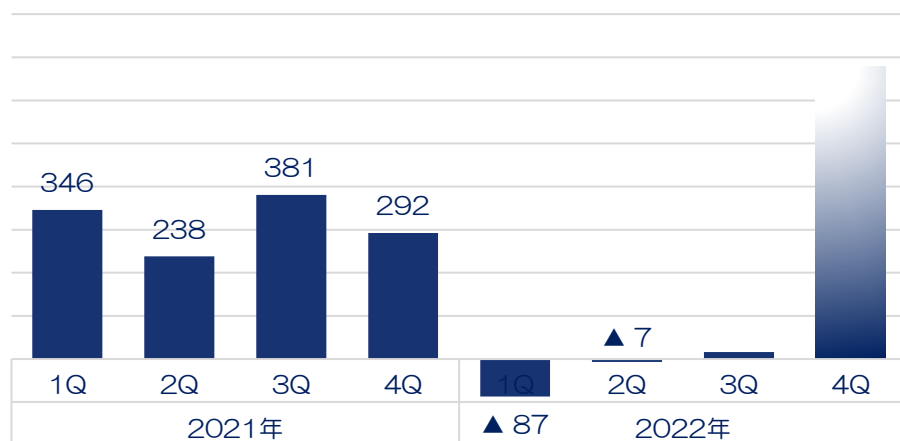
販売数量は2022年2月14日公表の当初業績予想には達しないものの、円安による影響で金額ベースでは当初業績予想を達成できる見込み

売上高 (百万円)



- 8月までは主として欧米の販売代理店の在庫調整
- 9月以降は年末商戦需要及び在庫調整の反動による販売増
- 2021年は10月頃より半導体不足により販売が失速

営業利益 (百万円)



- 今期は第4四半期に売上及び利益が集中する予定

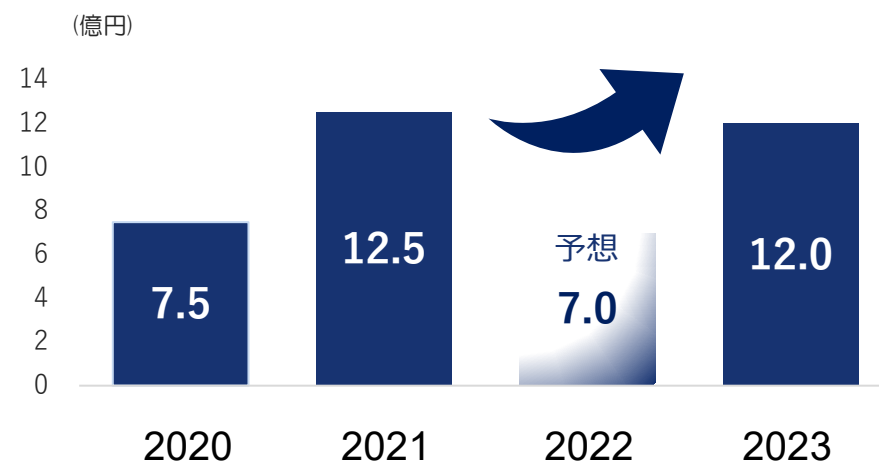
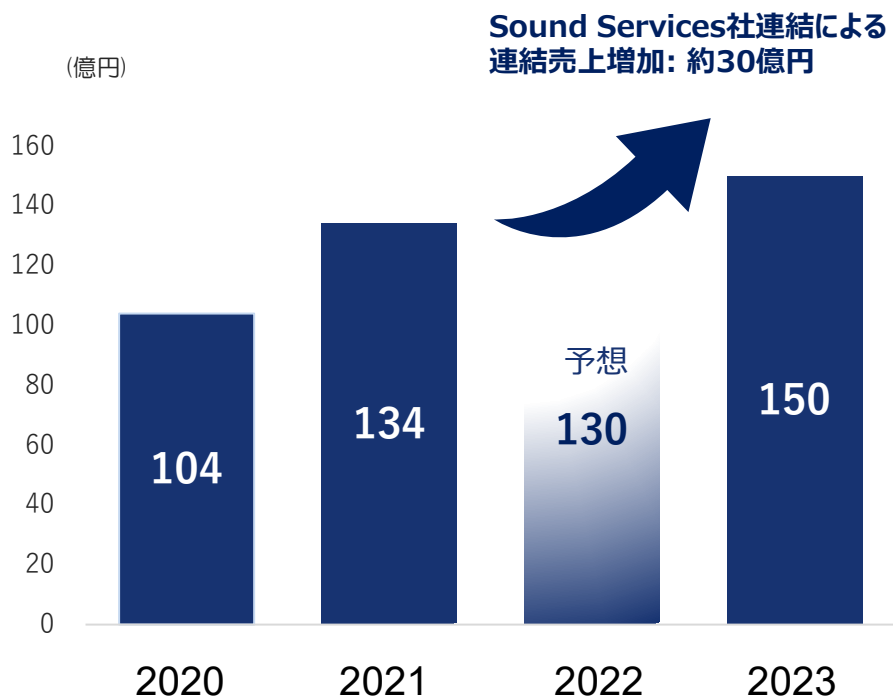
■ 第3次中期経営計画の業績目標から変更なし

2023年 連結売上高 **150億円**
(第3次中計)

- 第3次中計の業績目標と同じ連結売上高150億円を予想

2023年 連結営業利益 **12億円**
(第3次中計)

- 第3次中計の業績目標と同じ連結営業利益12億円を予想



We're For Creators



Ⅲ. 新製品 と 学術振興財団の設立

プロフェッショナルフィールドレコーダー (PFR)

F3 2-Channel Field Recorder

発売開始：2022年1月

販売実績：2022年1-6月 7,100台 市場想定価格：35,000円（税込）



- 世界初要素： 録音入力レベル調整不要（32bit Float録音）でマイクを2本接続可能な世界最小業務用フィールドレコーダー
- ターゲットクリエイター：映像作家／サウンドデザイナー
- コストパフォーマンス：他社同等品に比べ、価格は1/6程度
- 解決する課題：録音時に音割れなどを招くゲイン調整ミスや持ち運びの手間を解消

※販売実績は、株式会社ズーム単体の数値です。

プロフェッショナルフィールドレコーダー (PFR)

F8n Pro

MultiTrack Field Recorder

発売開始：2022年2月

販売実績：2022年2-6月 800台 市場想定価格：148,500円（税込）



- 世界初要素： 8チャンネルのマイクプリアンプを搭載し、32bit Float録音に対応した業務用フィールドレコーダー
- ターゲットクリエイター：映像作家、サウンドデザイナー
- コストパフォーマンス：競合他社同等品に比べ10万円ほど安い
- 解決する課題： 入力レベルが予想できない野外での録音や音質に厳しいプロの現場において、音割れしたり、音が小さすぎてノイズが多いといった問題を解消

※販売実績は、株式会社ズーム単体の数値です。

オーディオインターフェース (AIF)

AMS SERIES

AUDIO I/F for MUSIC & STREAMING

発売開始：2022年6月

販売実績：2022年6月 1,900台

市場想定価格：AMS-22 11,900円（税込）

AMS-24 14,900円（税込）

AMS-44 19,900円（税込）



- 世界初要素： 各モデル世界最小のオーディオインターフェース
- ターゲットクリエイター： DAWで音楽制作をするミュージシャンやSNS上でライブ配信するミュージシャン、ユーチューバー
- コストパフォーマンス： スマートフォンやタブレットと他社製品を使用して録音・配信する場合と比べてそのコストは1/2程度
- 解決する課題： 音楽制作用とライブ配信用の両方に対応し、スイッチ1つで切替えが可能。軽量かつ電池駆動が可能な設計により、今まで配信が困難であった場所から高音質な配信が可能

※販売実績は、株式会社ズーム単体の数値です。

オーディオインターフェース (AIF)

UAC SERIES

USB Audio Converter

発売予定：2022年冬



- 世界初要素： 32bit フロート録音技術搭載
- ターゲットクリエイター：音楽制作ソフト（DAW）を使用しているミュージシャン、コンポーザー
- コストパフォーマンス：同価格帯の競合機種と同等以上の入出力仕様でありながら32bit Floatによる高音質化を実現予定
- 解決する課題：デュアルADコンバーターによる高ダイナミックレンジ+最高192kHzというハイサンプリングレートによる広帯域により、前例のないハイレベルな音質で録音が可能

マイクロフォン (MIC)

ZPC-1 Pencil Condenser Microphones

発売開始：2022年4月

販売実績：2022年4-6月 900台

市場想定価格：18,000円（税込）



アクセサリ (AC)

ZMA-1 Broadcast Mic Arm

発売開始：2022年3月

販売実績：2022年3-6月 900台

市場想定価格：9,500円（税込）



※販売実績は、株式会社ズーム単体の数値です。

ズームグループ学術振興財団の設立趣意書

当社グループは1983年に創業して以来、「音楽用途の電子機器の開発と販売によって、世界の共通語である音楽の市場拡大と発展に貢献すること」を目指し、常に先端技術を応用して独自性のある製品を開発してまいりました。変化する市場に適応しながら100年続くブランドを構築するべく、環境への配慮を重視することで企業の社会的責任を果たしつつ、技術革新に対する投資を積極的に行っていきたいと考えております。

当社はこれまでも、人々の生活を豊かにする製品やサービスを「音」「音楽」「楽器」を通じて提供してまいりました。この度、より一層社会に対して恩返ししたいという強い気持ちから、社会との連帯調和の経営方針をより明確な形で具現するため、ズームグループ学術振興財団を設立することといたしました。

本財団では、音・音楽・楽器に関する科学技術分野における研究開発への助成等を行い、研究者の育成に努め、日本の音・音楽・楽器に関する科学技術の一層の発展を図り、人々の生活や人生がより豊かになる社会の実現に貢献していきたいと考えております。

2022年7月1日

株式会社ズーム
代表取締役CEO
飯島 雅宏

音響に関する研究大学と研究者

日本音響学会のHPによると、音響について研究している大学等は全国に110校あり、研究者（教授や准教授）は253名いることが分かりました。
各研究室に属する若手研究者を含めるとその数は増加するものと考えます。
音響以外にも、助成の対象枠を、音楽や楽器に関する研究に広げることで更に多岐にわたる申請が期待できます。

音響関連の大学等研究室と研究者数

学校数	110校
研究者数	253名

音響研究の領域

- ① 音声
- ② 聴覚
- ③ 騒音振動
- ④ 超音波
- ⑤ 電気音響
- ⑥ 音声音響
- ⑦ アコースティックイメージ
- ⑧ 建築音響

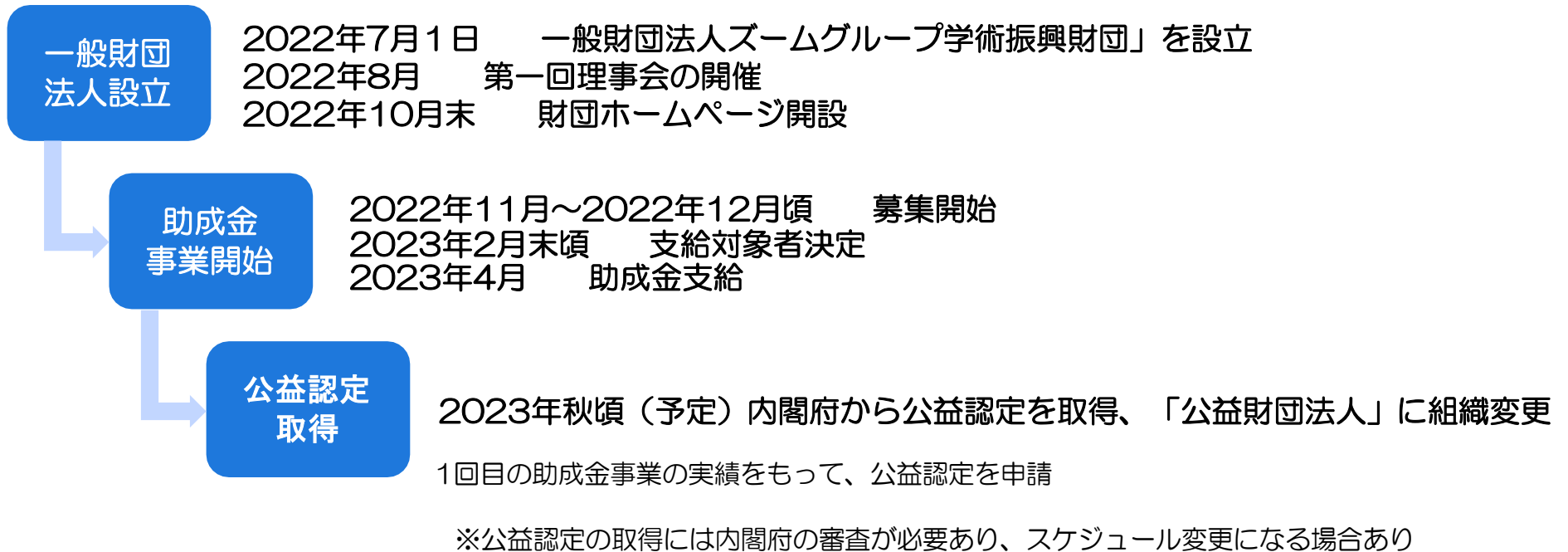
ズームグループ学術振興財団の人員

<敬称略>

理事 (任期；2年)	飯島 雅宏 (代表理事)	株式会社ズーム 代表取締役CEO
	井上 保雄	法政大学大学院 UAM研究所 特任研究員
	石黒 尚久	株式会社ストーンシステム 代表取締役 社長
評議員 (任期；4年)	山田 達三	株式会社ズーム 取締役CFO
	深沢 英昭	泉吉株式会社 常務取締役
	中屋 昌太	株式会社わたしのお教室 代表取締役 社長 CEO
監事 (任期；2年)	中野 陽介	株式会社AAA総合会計 代表取締役
選考委員 (任期；2年)	荻戸 道人	元 株式会社ズーム 取締役CTO 現技術顧問
	伊藤 洋一	日本大学 理工学部 電気工学科 名誉教授
	今間 俊博	東京都立大学 システムデザイン研究科 教授
事務局	飯田 浩一／長友 千恵	

財団の運営スケジュール

本財団は以下のスケジュールで公益認定の取得を目指す。



We're For Creators



（ご注意）本資料の将来の見通しに関する記述については、当社が現在入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいて作成しており、潜在的なリスクや不確実性が内在しております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。